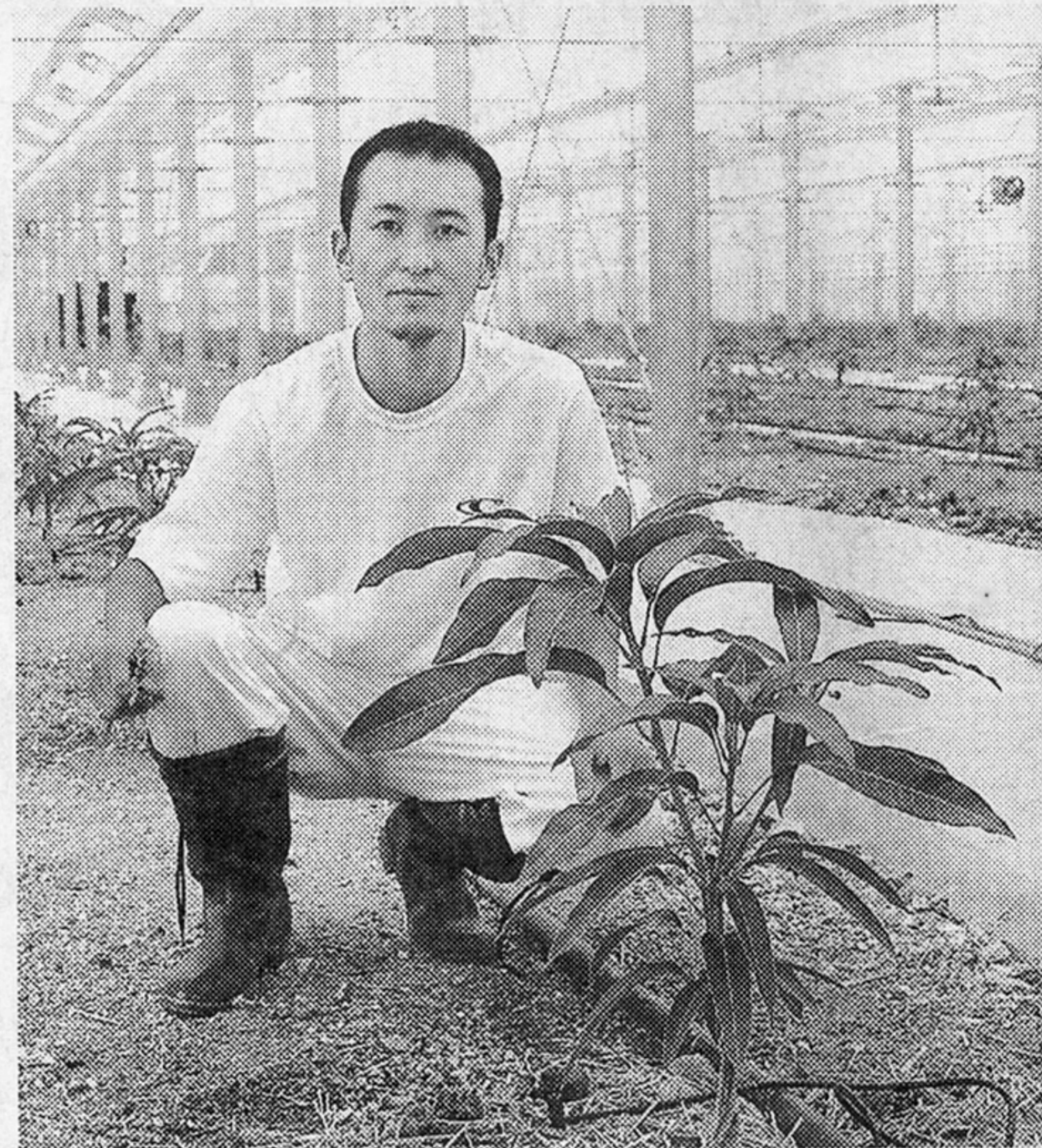


▲塩見地区に建設された屋根型大型ハウス



2年後の収穫に期待を寄せる山本さん

【北部支局】「太陽のタマゴ」の愛称で宮崎ブランドの代名詞になった完熟マンゴー。日向産のマンゴーは色沢が鮮紅色なのが特徴で、昨年は1箱(2L・3玉)が4000円、今年は倍以上の1万円と高値で販売されている。消費者の高品質、高級品志向で需要が増大する中、JA日向では国の「強い農業づくり交付金制度」を利用したハウスリース事業を行い、マンゴー生産農家の規模拡大に取り組んでいる。

高品質マンゴー 生産拡大へ

JA日向 管理しやすい大型ハウスをリース

3戸の農家が活用

「強い農業づくり交付金制度」は、生産・経営から流通までの強い農業づくりを支援するため、地域における対策を総合的に推進す

ることを目的に2005年度に施行された。JA日向では、06年度から需要に応じた生産の確保、品質の向上による産地間競争力の強化や担い手の育成、施設を利用した集約型農業の促進などを図るために「JA日向ハウスリース事業」を展開している。

に、1棟平均1600平方メートルの屋根型大型ハウス4棟を設置。この施設は、台風など自然災害に強く、長期被覆が可能で作業の効率化

自動開閉装置やファンを完備 担い手育成・団地化進める

同JAは日向市塩見地区

品質のマンゴー生産にはこまめな温度管理が必要なため、自動開閉装置や空気循環ファンも完備している。

現在、3戸の農家がリース事業を活用。JA日向営農指導課の一政洋介係長は「リース事業は15年で償還となっています。新規で栽培を予定している若手も2人います。1団地造成の計画もあり、新しい担い手の育成や確保ができれば、品目で1億円が期待できます」と意気込む。

01年から既設のハウス(16戸)でマンゴー栽培に取り組んでいた同市塩見の山本孝志さん(28)は、今年2棟のハウス(28戸)をり

(鈴野浅夫)

既設ハウスでマンゴーを収穫する山本さんと妻の三樹さん(28)



1した。「高額の投資に悩みましたが、今の面積では将来が不安でした。摘果や玉吊りを早くして、色の良い2L以上の大玉を生産すればマンゴー市場は有望だと判断し、思い切って規模拡大に踏み切りました」と話す。

4月に36

0本の苗木を植栽し、2年後の09年6月から8月に収穫を予定している。永久樹の樹間は5mで、その間に間伐樹を植栽し、計画密植栽培を行う。さらに、樹勢の維持と結果枝を確保することで収量を伸ばし、最終的には10戸当たり1・8トンを目標としているという。一政係長は「安定的・効率的な生産を行うために、共同利用生産団地の形成を推し進め、地域担い手の健全な経営体の確立に取り組みたい」と話す。今後、マンゴーの生産拡大による地域の活性化が期待されている。



お問い合わせは—
NOSAI連宮崎
〒880-0877
宮崎市宮脇町118番
☎0985(27)4288

「ご愛読者プレゼント」実施中。2枚1組でご応募ください。



2枚1組でご応募ください